

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2020年5月15日
【四半期会計期間】	第51期第3四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	株式会社物語コーポレーション
【英訳名】	The Monogatari Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長CEO 加治幸夫
【本店の所在の場所】	愛知県豊橋市西岩田五丁目7番地の11
【電話番号】	0532-63-8001（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 財務・成長戦略担当 津寺毅
【最寄りの連絡場所】	愛知県豊橋市西岩田五丁目7番地の11
【電話番号】	0532-63-8001（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 財務・成長戦略担当 津寺毅
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第3四半期 連結累計期間	第51期 第3四半期 連結累計期間	第50期
会計期間	自2018年7月1日 至2019年3月31日	自2019年7月1日 至2020年3月31日	自2018年7月1日 至2019年6月30日
売上高 (千円)	44,050,778	49,302,383	58,924,277
経常利益 (千円)	3,759,540	3,703,152	4,686,824
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	2,319,483	1,865,209	2,938,471
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,311,569	1,858,804	2,898,123
純資産額 (千円)	17,089,459	18,896,410	17,681,743
総資産額 (千円)	32,945,937	35,595,005	32,735,721
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	385.51	309.80	488.33
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	384.11	308.75	486.57
自己資本比率 (%)	51.6	52.8	53.7

回次	第50期 第3四半期 連結会計期間	第51期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2019年1月1日 至2019年3月31日	自2020年1月1日 至2020年3月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	150.87	138.53

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間及び四半期報告書提出日（2020年5月15日）現在において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、以下の追加すべき事項が生じております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息せず、緊急事態宣言の延長による外出自粛要請継続等により、来店客の減少や店舗の営業時間短縮、営業休止という事態がさらに生じた場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

（継続企業の前提に関する重要事象等について）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、物語(上海)企業管理有限公司の運営店舗（12店）の一時休業（2020年1月27日から2月末日）に加え、国内直営店舗全店（302店）を一時休業（2020年4月7日から5月10日）してあります。このため、当該期間における売上高の著しい減少が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が生じております。

しかしながら、当第3四半期連結会計期間末において現金及び預金を6,937,341千円保有しているほか、同感染症感染拡大の長期化に対する備えとして2020年4月に5,000,000千円の借入を行っており、十分な手元資金を確保していることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表等への注記は記載しておりません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の長期化による中国の景気減速懸念等、海外における不安定な政治動向の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、景気の先行きはより一層不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、原材料価格の高止まりや慢性的な人手不足を背景とした人件費の上昇に加え、消費税率の引き上げによる消費マインドの停滞、台風などの自然災害及び新型コロナウイルス感染症拡大による売上高への影響など依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、郊外ロードサイドの好立地への積極的な出店を進め、国内において直営店26店舗、フランチャイズ店4店舗、海外において2店舗の出店を実施しました。また、既存店舗の内装の変更、新メニュー開発、顧客の獲得と固定化に取り組むなど店舗の収益改善に向けた施策を進めるとともに、「きゃべとんラーメン」「熟成焼肉 肉源」「牛たん大好き 焼肉はっぴい」を始めとする新業態開発・育成も進めて参りました。さらに、人材の採用や教育面の強化、海外事業の強化等、中長期的な成長の実現に向けた基盤づくりに、引き続き取り組んで参りました。

上述の取組みにより、国内既存店（注）の売上高は、直営店においては前期比4.3%増、フランチャイズ店においては3.0%増と堅調に推移しました。

また、当第3四半期連結会計期間末における当社グループ店舗数は535店舗（直営店301店舗、フランチャイズ店222店舗、海外12店舗）となりました（後掲表1）。

以上により、売上高は49,302,383千円（前年同期比11.9%増）、営業利益3,685,298千円（前年同期比17.6%増）、経常利益3,703,152千円（前年同期比1.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,865,209千円（前年同期比19.5%減）となりました。

（注）国内既存店とは、開店から18ヶ月以上経過している国内の店舗を対象としております。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の概況については、当社グループの事業は単一セグメントでありますので、その概況を部門別に示すと次のとおりであります。

焼肉部門

当第3四半期連結累計期間中において、「焼肉きんぐ」は12店舗の出店（直営店9店、フランチャイズ店3店）、「熟成焼肉 肉源」は1店舗の出店（直営店1店）を実施しました。これにより、焼肉部門の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は248店舗（直営店150店、フランチャイズ店98店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は25,548,714千円（前年同期比13.6%増）となりました。

ラーメン部門

当第3四半期連結累計期間中において、「丸源ラーメン」は8店舗の出店（直営店8店）、「きゃべとんラーメン」は1店舗の出店（直営店1店）を実施しました。これにより、ラーメン部門の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は159店舗（直営店69店、フランチャイズ店90店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は7,134,068千円（前年同期比30.0%増）となりました。

お好み焼部門

当第3四半期連結会計期間末におけるお好み焼部門の店舗数は35店舗（直営店16店、フランチャイズ店19店）であります。

以上の結果により、直営店の売上高は1,535,358千円（前年同期比19.4%減）となりました。

ゆず庵部門

当第3四半期連結累計期間中において、「寿司・しゃぶしゃぶ ゆず庵」は8店舗の出店（直営店7店、フランチャイズ店1店）を実施しました。これにより、ゆず庵部門の当第3半期連結会計期間末の店舗数は77店舗（直営店62店、フランチャイズ店15店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は9,139,175千円（前年同期比14.3%増）となりました。

専門店部門

当第3四半期連結会計期間末における専門店部門の店舗数は4店舗（直営店4店）であります。

以上の結果により、直営店の売上高は779,638千円（前年同期比0.0%増）となりました。

フランチャイズ部門

主にフランチャイズ加盟店舗からの売上ロイヤルティ・加盟金・業務受託料等であります。当第3四半期連結累計期間中にフランチャイズ店4店舗の出店を実施しました。当第3四半期連結会計期間末のフランチャイズ店舗数は222店舗となりました。

以上の結果により、売上高は3,520,247千円（前年同期比17.3%増）となりました。

その他部門

主に連結子会社である物語（上海）企業管理有限公司による取組みであります。当第3四半期連結累計期間中に2店舗の出店を実施しました。これにより、その他部門の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は12店舗となりました。

売上高は1,645,182千円（前年同期比31.9%減）となりました。

表1 「部門別店舗数の状況」

（単位：店）

	直営（国内）	F C（国内）	海外	2020年3月末 店舗数
焼肉部門	150	98	-	248
ラーメン部門	69	90	-	159
お好み焼部門	16	19	-	35
ゆず庵部門	62	15	-	77
専門店部門	4	-	-	4
その他部門	-	-	12	12
合計	301	222	12	535

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、以下のとおりであります。

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は35,595,005千円となり、前連結会計年度末と比較して2,859,283千円の増加となりました。これは主に現金及び預金が677,232千円増加したこと、売掛金が664,188千円増加したこと、設備投資により有形固定資産が1,006,500千円増加したこと、新規出店用地の契約により差入保証金が262,341千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債は16,698,595千円となり、前連結会計年度末と比較して1,644,617千円の増加となりました。これは主に買掛金が629,597千円増加したこと、長期借入金447,500千円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は18,896,410千円となり、前連結会計年度末と比較して1,214,666千円の増加となりました。これは主に利益剰余金が1,263,158千円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は52.8%（前連結会計年度末は53.7%）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 重要事象等について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、物語(上海)企業管理有限公司の運営店舗及び国内直営店舗全店を一時休業した期間において売上高が著しく減少しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が生じております。

このような状況を解消するために下記の取り組みを行っております。

- ・金融機関からの借入実施による財務基盤の安定化
- ・既存店舗の売上対策強化
- ・従業員の適正配置などのコスト削減施策の推進
- ・役員報酬を含む本社費用の削減

金融機関からの借入実施により十分に手元資金を厚くしていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,000,000
計	9,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年5月15日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	6,024,922	6,025,222	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	6,024,922	6,025,222		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2020年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日 (注)	2,700	6,024,922	1,672	2,725,640	1,672	2,598,491

(注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2020年4月1日から2020年4月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が300株、資本金及び資本準備金がそれぞれ185千円増加しております。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,016,500	60,165	-
単元未満株式	普通株式 4,922	-	-
発行済株式総数	6,022,222	-	-
総株主の議決権	-	60,165	-

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社物語コーポレーション	愛知県豊橋市西岩田五丁目7番地の11	800	-	800	0.01
計	-	800	-	800	0.01

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役常務 Storyteller株式会社代表 取締役社長 物語（上海）企業管理有限 公司董事兼総経理	取締役常務 専門店・新業態事業部事業部長兼専門 店・新業態事業部和食ブロックブロッ ク長 Storyteller株式会社代表取締役社長 物語（上海）企業管理有限公司董事兼 総経理	岡田 雅道	2020年2月1日

(2) 執行役員に関する事項

当社は執行役員制度を導入しており、当第3四半期累計期間における執行役員の異動は、次のとおりであります。

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
上級執行役員 マーケティング担当 新事業・新業態開発ラボ リーダー	上級執行役員 マーケティング担当 業態開発本部本部長 新事業・新業態開発ラボリーダー	堀 誠	2020年2月1日
執行役員 FC事業推進本部本部長	執行役員 FC事業推進本部本部長兼FC支援室室長	伊藤 栄志	2020年2月1日
執行役員 FC事業推進本部FC支援室室 長	執行役員 物語（上海）企業管理有限公司総経理 付特命担当	蓼沼 孝裕	2020年2月1日
執行役員 ゆず庵事業部事業部長兼ゆ ず庵事業部事業推進グルー プ長	執行役員 業態開発本部 開発企画・デジタルマーケティング部 部長	三宅 泰嗣	2020年2月1日
執行役員 お好み焼事業部事業部長兼 お好み焼事業部事業推進グ ループ長	執行役員 ゆず庵事業部事業部長兼ゆず庵事業部 事業推進グループ長	佐々木 亨明	2020年2月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年7月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,260,109	6,937,341
売掛金	1,131,283	1,795,472
商品及び製品	323,173	394,688
原材料及び貯蔵品	70,446	74,786
その他	1,146,432	1,368,702
貸倒引当金	364	629
流動資産合計	8,931,080	10,570,361
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,136,182	17,176,366
その他(純額)	2,741,391	2,707,708
有形固定資産合計	18,877,574	19,884,074
無形固定資産		
投資その他の資産	296,284	317,421
差入保証金	3,853,672	4,116,013
その他	777,109	707,134
投資その他の資産合計	4,630,781	4,823,147
固定資産合計	23,804,640	25,024,643
資産合計	32,735,721	35,595,005
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,055,687	2,685,285
未払法人税等	697,226	743,069
株主優待引当金	22,783	37,717
賞与引当金	-	228,283
ポイント引当金	43,703	99,294
その他	5,298,630	5,513,261
流動負債合計	8,118,031	9,306,911
固定負債		
社債	1,000,000	1,000,000
長期借入金	3,870,870	4,318,370
退職給付に係る負債	329,159	356,084
資産除去債務	454,293	497,281
その他	1,281,623	1,219,947
固定負債合計	6,935,946	7,391,683
負債合計	15,053,977	16,698,595
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,719,616	2,725,640
資本剰余金	2,584,788	2,539,631
利益剰余金	12,340,480	13,603,638
自己株式	1,899	1,899
株主資本合計	17,642,986	18,867,011
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,101	2,246
為替換算調整勘定	50,064	55,237
退職給付に係る調整累計額	2,299	771
その他の包括利益累計額合計	49,262	52,218
新株予約権	73,709	81,617
非支配株主持分	14,310	-
純資産合計	17,681,743	18,896,410
負債純資産合計	32,735,721	35,595,005

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
売上高	44,050,778	49,302,383
売上原価	15,211,696	16,993,855
売上総利益	28,839,081	32,308,527
販売費及び一般管理費	25,707,533	28,623,228
営業利益	3,131,547	3,685,298
営業外収益		
受取利息及び配当金	12,606	11,925
受取賃貸料	10,020	8,833
協賛金収入	626,791	16,438
その他	28,457	70,213
営業外収益合計	677,875	107,410
営業外費用		
支払利息	16,565	13,368
為替差損	15,288	41,221
賃貸収入原価	7,072	7,051
その他	10,955	27,914
営業外費用合計	49,882	89,556
経常利益	3,759,540	3,703,152
特別損失		
固定資産除却損	69,550	55,021
減損損失	146,403	162,349
店舗閉鎖損失	57,399	279,930
店舗閉鎖損失引当金繰入額	36,551	-
その他	-	18,589
特別損失合計	309,905	515,891
税金等調整前四半期純利益	3,449,634	3,187,261
法人税等	1,124,578	1,325,427
四半期純利益	2,325,056	1,861,833
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	5,572	3,375
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,319,483	1,865,209

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
四半期純利益	2,325,056	1,861,833
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,449	855
為替換算調整勘定	15,040	5,246
退職給付に係る調整額	3,002	3,071
その他の包括利益合計	13,487	3,029
四半期包括利益	2,311,569	1,858,804
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,306,090	1,862,252
非支配株主に係る四半期包括利益	5,478	3,448

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当社は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、国内直営店舗全店(302店)を2020年4月7日から5月10日まで一時休業し、5月11日以降は順次営業を再開しております。

内閣官房から発出される同感染症に関する情報、政府及び各自治体における各種取り組み等を参考にし、緊急事態宣言による外出自粛要請が5月末には解除されると仮定しており、その後は徐々に当社の業績が改善することが見込まれるものの、感染拡大前の水準まで回復するには年内までの期間を要するものと想定しております。

当社グループは、上記の仮定を基礎として、固定資産の減損会計の適用及び繰延税金資産の回収可能性等に関する会計上の見積りを行っており、その結果として、当第3四半期連結会計期間において減損損失98,757千円を計上し、繰延税金資産を50,879千円取り崩しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
加盟店の仕入先からの仕入債務の一部に対する保証	626,977千円	684,079千円
	また、上記のほか加盟店1社の事業用定期建物賃貸借契約に対し、月額賃料1,000千円の債務保証を行っております。 なお、この事業用定期建物賃貸借契約の残余期間は、4年8ヶ月であります。	また、上記のほか加盟店1社の事業用定期建物賃貸借契約に対し、月額賃料1,000千円の債務保証を行っております。 なお、この事業用定期建物賃貸借契約の残余期間は、3年11ヶ月であります。

当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
当座貸越極度額の総額	-千円	1,000,000千円
借入実行残高	-	-
差引残高	-	1,000,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2020年3月31日)
減価償却費	1,786,996千円	1,951,704千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年9月26日 定時株主総会	普通株式	240,498	40	2018年6月30日	2018年9月27日	利益剰余金
2019年2月8日 取締役会	普通株式	270,823	45	2018年12月31日	2019年3月4日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月25日 定時株主総会	普通株式	270,877	45	2019年6月30日	2019年9月26日	利益剰余金
2020年2月7日 取締役会	普通株式	331,173	55	2019年12月31日	2020年3月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

当社は、飲食店事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

当社は、飲食店事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	385円51銭	309円80銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	2,319,483	1,865,209
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	2,319,483	1,865,209
普通株式の期中平均株式数(株)	6,016,683	6,020,733
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	384円11銭	308円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	21,889	20,380
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社グループは、今般の新型コロナウイルス感染拡大とその長期化に対する備えとして、財務基盤の安定化を図るべく手元資金を厚くすることを目的に、以下のとおり借入契約を締結しております。

- (1) 借入先の名称 : 株式会社三菱UFJ銀行 他
- (2) 借入金額 : 5,000,000千円
- (3) 借入利率 : 基本金利+スプレッド
- (4) 借入実行日 : 2020年4月24日~2020年4月30日
- (5) 借入期間 : 1年
- (6) 担保提供 : 無担保・無保証

2【その他】

2020年2月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....331,173千円

(ロ) 1株当たりの金額.....55円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2020年3月3日

(注) 2019年12月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年5月14日

株式会社物語コーポレーション
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤達治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤貴俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社物語コーポレーションの2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年7月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社物語コーポレーション及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。